

6 今年度の重点目標に対する総合評価

5つの重点項目に対して9つの分掌でそれぞれ重点課題と達成目標を設定し、取り組みを進めてきた。主な変更点等として、①生徒指導について、生徒主体の交通安全道徳の規範意識の醸成②進路支援について、生徒の読解力や記述力の向上③学習活動について、社会人基礎力の「考え抜く力」の向上を新たな達成目標とした。

重点課題に定めた9課題の評価結果は、A（達成した）なし、B（ほぼ達成した）8課題、C（やや不十分だった）1課題であった。

(1) 学習活動では3つの重点課題に取り組んだ。教科指導の充実と確かな学力の向上を目指して、全教科科目で学習アンケートを実施し、生徒の授業への取り組みを確認し、授業改善に取り組んだ。また、課題解決力を身に付けさせるため、年3回以上自己評価シートでチェックし、自分を振り返りさせることができた。

商業教育では、生徒の記憶定着システム（モノグサ）を活用し、検定学習に向けた隙間時間の活用や自宅学習の充実促進を図れた。

模擬株式会社「TOMI SHOP」は、社会人基礎力の「考え抜く力」を含め、12の能力要素で自己を正しく評価する姿勢が高められた。

(2) 特別活動では2つの課題に取り組んだ。部活動については、個人目標達成度は、環境が整い活動が充実したことで、目標達成割合が増加した。

読書活動では、図書室入口や特設コーナーで毎月企画展示を行い、図書館利用率を向上させた。

(3) 学校生活では2つの重点課題に取り組んだ。SNS利用の規範意識の向上のため、生徒が主体的に活動し、利用マナーの向上に努められた。

AEDや熱中症応急処置講習会、研修会（2回）を実施し、教職員自身の学びを高めるための取り組みを継続できた。

(4) 進路支援では、教職員が一体となって面接や小論文指導の充実に努め、多様な生徒の進路希望に応える手厚い指導を行ったことで、生徒の進路満足度は昨年度より上昇し、目標値を達成した。

(5) PTA活動では、情報発信や案内連絡のデジタル化が定着し、迅速に相互の連携が図れるようになった。

7 次年度へ向けての課題と方策

三つの方針「スクールポリシー」を踏まえ、次のような観点から教育活動の充実を目指していきたい。

(1) デザイン思考を取り入れた課題設定力・解決力を見に付け、外部人材によりアントレプレナーシップ（起業家精神）を学び、多角的な視点を持った主体的な生徒を育成する。

(2) 基礎科目に関する個別指導を実施し、商業の基礎となる力を育み、理解力、実践力を身につけさせる。また、生徒の学習意欲を高め、学習内容の理解を深めることで、進路実現に繋げる。

(3) 模擬株式会社「TOMI SHOP」を通して、身につけた知識・技能を活用し課題発見・課題解決の実践に取り組み、社会人基礎力の育成に努める。

(4) 愛され信頼される人間力を身につけるために、地域社会に貢献する教育活動を推進し、あらゆる機会を通して、社会人としての必要なマナーと心構えの習得に取り組み、愛され信頼される人間力を育む。